



Title	田崎教授著 古代支那 經濟思想及制度
Author(s)	馬場, 誠
Citation	商業と經濟, 5(2), pp.256-259; 1925
Issue Date	1925-02-01
URL	http://hdl.handle.net/10069/26815
Right	

This document is downloaded at: 2019-02-17T05:59:35Z

批評紹介

田崎教授著 支那古代理論 經濟思想及制度

馬場 誠

『田崎教授を有することは我校の誇である』といふ言葉がある。

それは實に大正八年——田崎教授が米國から歸朝されたとき、山内前々校長が歡迎演說中——述べられた一句であつた。

『田崎教授を有することは』既に『我長崎高等商業學校の誇』であつたが、先般田崎教授が經濟學者の名譽なる學位たる經濟學博士を受けられたことは所謂その『我校の誇』をば一層大ならしむるものでなくて何であらう！

思出の多い自分の英獨留學を回想して見る。

四月十三日——英國内地旅行から倫敦へ戻つた自分は他から田崎教授の論文通過を電話され、誠に悦んだのであつた。

歸朝して田崎教授に面會し祝詞を述べた。驚いたのは田崎教授の白髮——銀光のしらが——が非常に多く眼についたといふことであつた。これに依つて田崎教授がその論文完成のため、如何にその精力を盡されたかといふことを推察することが出來たのであつた。

田崎教授の支那古代經濟史研究は過去十數年來のことである。近業『支那古代經濟思想及制度』は農業は女性なりといふ思想から出發する。

序文にいはいはく。

『吾人の古代支那の社會及經濟上に關する研究の一にして、其の土地及び農業を女性又は陰性と配同象徴する思想上の特質が、自ら封建組織及土地制度の上に表現せられ居るとの結論に達する過程なり』と、また。

『第一部は思想の方面に關するものにして、』

『第一編には、廣く世界古今の原始的人民の有する神話及俗信に、「地母」或は「穀母」に關するもの甚だ多きことを論じ、且つ又其等原始的諸人民間に於ける植物性生活資料採取の業には女性が之に當るを常とすること、及び農業の發生を導き、次で幼稚農業の養育に任じたるものは主として女性なりしことを究明し、以て土地及農業を女性に配同象徴する思想の發生する所以なきにあらざること認め、』

『第二編に於ては支那古代に於ても、土地及農業を女性又は陰性に配同象徴する思想の存在せしことを研究し、先づ地皇及神農が女性又は陰性を以て象徴せられしやを考究し、次で土神たる「社」穀神たる「稷」が共に陰の方角たる北方に祀られ、且其祭壇が陰性女性を象徴する方に造らるゝこと、更に易の天陽、地陰、又は乾父、坤母の思想、堯典以下周禮に至る諸禮制にも土地及農業が陰性又は女性に配同象徴せられ居ることを究明し、以て其等思想上の特質を認定し、以て第一編の主旨に照應したり。』

『第二部は組織及制度に關するものにして、』

『第一編には封建制度發生期の社會狀態、元后と群后、帝王と諸侯との關係、』

『第二編には禮記王制に現れたる封建の概要及其土地制度、』

『第三編には周禮及び其封建組織、』

『第四編には周禮に現れたる土地制度を研究し、』

『以て此等の組織及制度を中心とする古代支那の社會上經濟上及び政治上の發展進化の概要を究明し同時に土地及農業を女性陰性に象徴配同する思想が其等の組織及制度の諸方面に具象表現せられ居ることを認めたるもの、』

『是其概要なり。』と、

これに依つて本書の内容を窺知ることが出来ると思ふ。

田崎教授は我校に在職せらるゝこと既に約十年である、従つてこの大研究は本校に於て爲されたるものと稱しても大過はない、従つて我々關係者の『慶事』之に優るものはない。

既に發表された商業學や經濟學に關する論文に比較して勝ることも劣ることのない、立派な世界的の研究である。されば本書の學術的價値に關しては論文審査委員が、

『著者は其の力の及ぶ限り汎く幾百の典籍を涉獵し、』

『絶倫の精力と拔群の勉強とを以て淘汰商量是れ易め、』

『其篤學精勵は人をして驚畏の念を起すを禁せざらしむるものあり、』

『極めて慎重且眞率にして群書を讀破して眼孔紙背に徹せざれば己まざるの概あり、』

『未だ一日も怠ることなく孜々として材料の検討思索の鍊磨に従ひ』と激賞して居らるゝ。

自分はこの頃商業學や經濟學の新刊著述を出來得るだけ蒐集し、以てわが樂として居る。

最近『篤學忠道』なる田崎教授の力作を拙文庫所藏中に飾ることを得たのは誠に幸福とする所である。

以上世間の學を愛せらるゝ、人士に對しこの書の價値の如何に大なるかを御紹介するため、この文を草した次第である。(大正十三年十二月十三日)

『歐洲の改造』

人若しあつて世界戰爭以後の歐羅巴經濟事情を知るに最も重要な資料は何ぞと問ふらば、吾人はマンチエスター・ガーデアン・コンマーシアル紙の附録『歐洲の改造』十二冊を奨むるに躊躇せなむ。『Manchester Guardian Commercial』 Reconstruction in Europe。1917

劍橋大學教授ジョン・メーナード・キーンズ氏 John Maynard Keynes の編輯に係る。

大判紙數七百八十二、寄稿者數實に二百四十一、悉く歐洲各國當代の名士、専門教授の執筆に係る金玉の文字である、每號英語の外獨・佛・伊・西の四ヶ國語を以て刊行せられた。

恰かも自分が本邦を出發した大正十一年四月に第一分冊が……而して其後毎月一冊宛發

行せられたのであつた……自分としては特に思出多き大文献である。(馬場)

第一分冊

一 序 言

編輯の辭——『歐洲の改造』刊行祝詞。

二 外國爲替問題

歐洲爲替の安定——爲替原理及び『購買力平價』——倫敦爲替市場敘述——外國爲替の先物市場——英米貸借差額——歐羅巴の弗爲替相場と季節的變動——法の高低——リラ爲替——馬克爲替と其安定問題——獨逸國の對世界支拂勘定——獨逸の爲替管理——スカンデナヴィア爲替——留爲替に就きて——バルチック諸國の爲替——波蘭の爲替——東部ガリシア村落の貨幣及び爲替——繼承國の爲替市場としての維也納——チエツコ・スロヴァキアの爲替關係——羅馬尼亞の爲替——勃爾牙利の爲替——洪牙利の爲替——希臘の爲替——土耳其の爲替——金供給の現在及び將來——